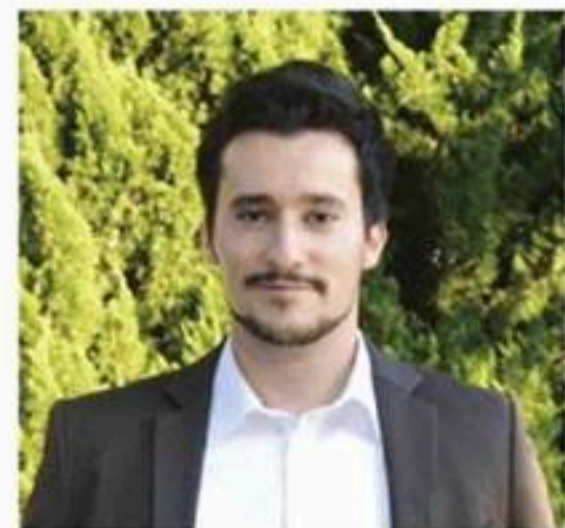




～富岡市とフランスの交流の歴史～



- 1872 (明治 5) 年 10月 富岡製糸場設立 (設立指導者：フランス人技師ポール・ブリユナ)
- 1972 (昭和 47) 年 10月 富岡製糸場設立 100周年を記念してプール・ド・ペアーージュ市よりメダルを贈呈
- 2008 (平成 20) 年 フランスで世界遺産登録に向け資料の調査を開始
- 2008 (平成 20) 年 10月 パリ日本文化会館主催「日仏交流 150周年記念シンポジウム」参加
- 11月 リオン市民との交流ツアー実施
- リオン商工会議所主催「シルクマーケット」出展
- 2009 (平成 21) 年 11月 リオン商工会議所主催「シルクマーケット」出展
- 2010 (平成 22) 年 5月 第2回日仏自治体交流会議 (金沢市) 参加
- 2011 (平成 23) 年 5月 フランスで行われた企画展「絹の歴史と富岡製糸場」で講演
- 2012 (平成 24) 年 8月 第3回日仏自治体交流会議 (シャルトル市) 参加
- プール・ド・ペアーージュ市表敬訪問
- 2013 (平成 25) 年 8月 フランス人国際交流員を採用 (JET プログラム)
- 2014 (平成 26) 年 10月 第4回日仏自治体交流会議 (高松市) 参加
- 2015 (平成 27) 年 2月 富岡製糸場で企画展「ボネとトミオカ」開催
- 11月 第5回日仏自治体交流会議 (トゥール市) 参加 (市長が日本側自治体を代表して講演)
- 富岡製糸場世界遺産登録記念大型文化事業「絹が結ぶ縁」開催
- プール・ド・ペアーージュ市と友好都市協定を締結
- 2016 (平成 28) 年 5月 上州富岡駅前「春のとみおかフランス祭@群馬」開催
- 10月 富岡どんと祭りにプール・ド・ペアーージュ市視察団を招待
- 富岡製糸場で企画展「友好都市協定締結記念事業プール・ド・ペアーージュ展」開催
- 12月 富岡製糸場で「日仏交流講演会」開催
- 2017 (平成 29) 年 1月 富岡製糸場で企画展「明治大学 クリスチャン・ポラック コレクション展」開催 (2月12日まで) (11ページで紹介)



**ダミアン・ロブション (29)**  
フランス北西部サブレ＝シュル＝サルト市出身。平成25年8月から国際交流員として、富岡製糸場で勤務。堪能な語学力を生かし、外国語文献の翻訳や外国人来場者の通訳などを主な業務としている。日本とフランスをつなぐ担い手として活躍中。

富岡市民の皆さん、ボンジュール！平成25年8月から富岡市国際交流員として働いているフランス出身のダミアン・ロブションです。フランスとの交流を中心とした富岡市の国際戦略や富岡製糸場の国内外向けの情報発信などに従事しています。

私が着任した時、140年ぶりに富岡製糸場に勤めるフランス人職員として少し話題になったのですが、富岡市とフランスの歴史的な関係が再び脚光を浴びたのはもちろん平成26年の世界遺産登録です。世界遺産登録を機に、明治5年に明治政府に雇われたフランス人指導者のポール・ブリユナがここ富岡の地にいち早く咲かせ続けた日仏交流の種が見事に花を咲かせ続けています。フランス・リオン市で実施さ

結ぶに、富岡市民の皆さんが富岡製糸場を日本の近代化のシンボルだけではなく、富岡市の日仏交流の過去と未来をつなげるプラットフォームとしても、これからもずっとたいせつにしていきたい。プール・ド・ペアーージュ市や富岡製糸場と関係の深いフランス都市などにも訪れていただければ幸いです。

国際交流員ダミアン・ロブションさんのコメント

フランス  
France



フランス共和国 データ	
面積	67万2,369平方キロメートル (海外領土および海外県を含む)
人口	約6,699万人 (2017年1月)
首都	パリ
位置	西ヨーロッパ (出典：仏国立統計経済研究所)

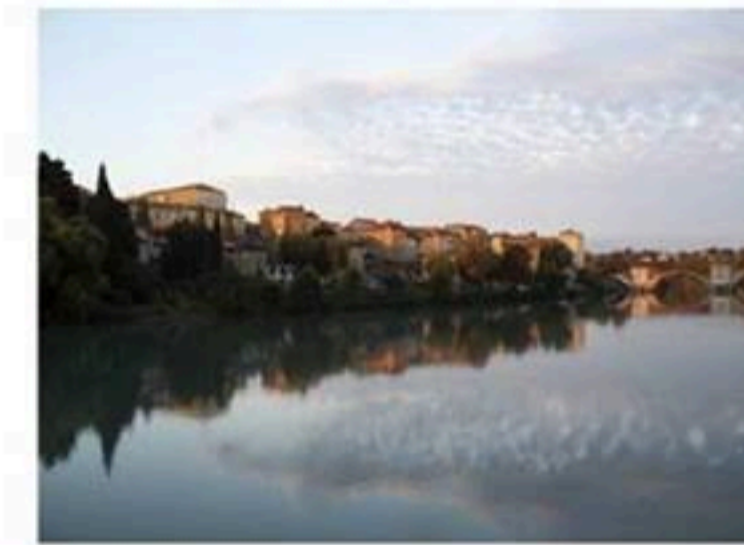


富岡製糸場で生まれた  
日仏交流の絆  
シルクの如く輝き、未来へつながっていく

富岡市と交流のあるフランス都市の紹介

プール・ド・ペアーージュ市 (ドローム県)

富岡製糸場の設立指導者であるフランス人技師ポール・ブリユナの生誕地であることが縁で、2015 (平成 27) 年 11月に本市と友好都市協定を締結しました。ポール・ブリユナが、上州の景色を見て、故郷を思い出したという記述があるように、プール・ド・ペアーージュ市の美しいイゼール川や森林公園などの自然環境は本市と通じるものがあります。



ポール・ブリユナ (1840 - 1908)

リオン市

歴史ある世界的に有名な絹の都です。富岡製糸場の官営期、富岡製糸場でひかれた生糸が横浜港からリオンに渡り、絹織物となっていました。富岡シルクブランド協議会が、2008 (平成 20) 年、2009 (平成 21) 年にリオン市で開催された「シルクマーケット」に出展。2015 (平成 27) 年 11月には、富岡製糸場世界遺産登録記念大型文化事業「絹が結ぶ縁」の会場となりました。



セルドン村 (アン県)

セルドン村に位置するセルドン銅工場には、富岡製糸場に繰糸器の部品を提供し、器械を調整する技術者を派遣したという契約書の原本が残っており、2016 (平成 28) 年 10月、富岡製糸場で実施した企画展「友好都市協定締結記念事業プール・ド・ペアーージュ展～周辺地域の歴史的産業に光をあてて～」で日本初公開となりました。発泡ロゼワインの産地でもあります。



ジュジュリユー村 (アン県)

ジュジュリユー村に位置するボネ絹工場は、富岡製糸場のモデル工場とも考えられる工場です。展示協力や交流を積み重ねています。2015 (平成 27) 年 2月、富岡製糸場で実施した企画展「ボネとトミオカ」では、富岡製糸場とボネ絹工場の類似性、工場システムの変遷などについて検証し、広く情報発信しました。現在は、アン県の博物館となっています。





△富岡シルクオリジナル商品の展示

2015（平成27）年11月、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録を記念し、「絹の都」として名高いフランスのリヨン市において、絹を通じた日仏交流の歴史を紹介する大型文化事業「絹が結ぶ縁（SOYEUX DESTINS）」が開催されました。本展示会の実施にあたり、本市は、これまで富岡製糸場総合研究センターによる日仏交流史に関する調査研究の成果や古写真ほか、富岡製糸場に関する資料の提供を行い、会期中も本市の訪問団が、同地で富岡製糸場や富岡シルクのPR活動を実施しました。

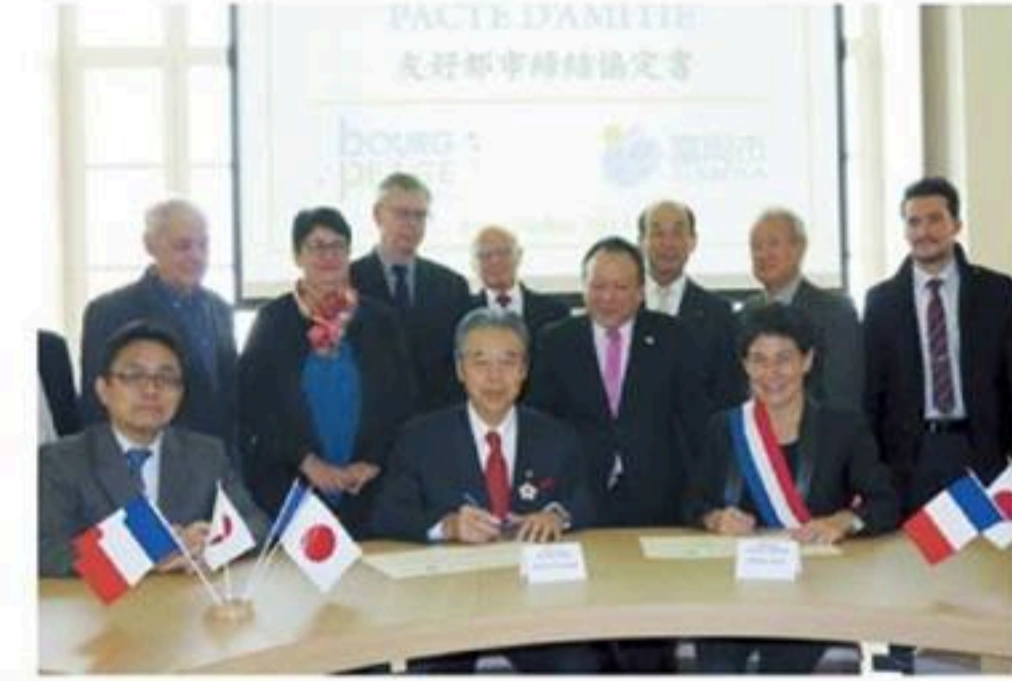
絹産業の歴史、芸術、経済という多方面の視点から、日仏間の長い交流の歴史を今に伝える契機となりました。

「絹が結ぶ縁」の開催

ブル・ド・ペアーージュ市から贈呈されたメダル



右：1972（昭和47）年贈呈  
左：2015（平成27）年贈呈



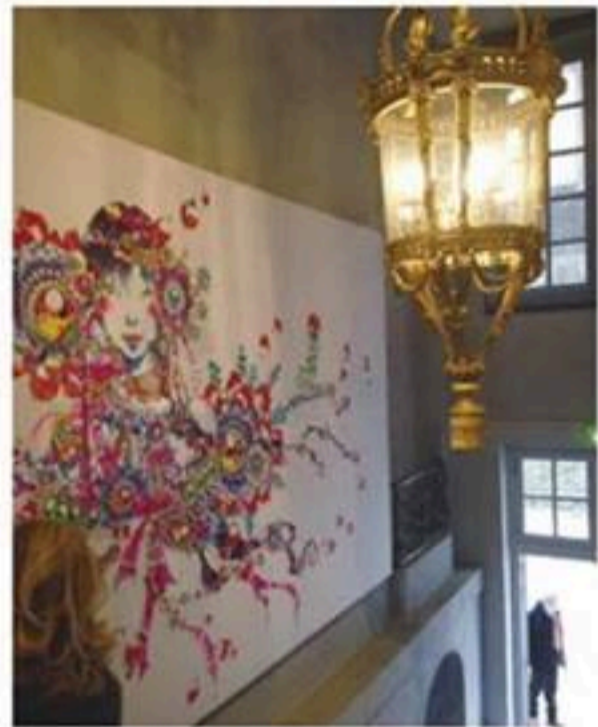
△2015（平成27）年11月4日、外務省在リヨン領事事務所長同席のもと、協定書が交わされる

ブル・ド・ペアーージュ市との友好都市協定の締結をはじめ、富岡市とフランスの交流における主な出来事をご紹介します

ブル・ド・ペアーージュ市と友好都市へ

フランス共和国ブル・ド・ペアーージュ市は、富岡製糸場の設立指導者であったフランス人技師ポール・ブリユナの生誕地です。2015（平成27）年11月に本市は同市と友好都市になりました。同市とのつながりは、1872（明治5）年の富岡製糸場設立までさかのぼりますが、それ以降の交流は100年の時を経ることになります。1972（昭和47）年に、NHKのドキュメンタリー取材班がブル・ド・ペアーージュ市に入ったことがきっかけとなり、富岡製糸場設立100周年を記念して、日本国外務省経由で、当時のブル・ド・ペアーージュ市から本市に記念メダルが贈呈されました。（2015（平成27）年、友好都市協定締結時にも贈呈される）それから三十余年が過ぎた2008（平成20）年より、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録推進活動の一環にて、本市における日仏交流事業が動き始めました。

▷本市出身の染色アーティスト大竹夏紀さんの作品展示



△酒井登巳子さんによる花まゆ作品の展示



△富岡製糸場とフランスを結ぶ縁を描いたサンドアートデュオ・エミュレヌエットによる実演

2011（平成23）年に、企画展「絹の歴史と富岡製糸場」がブル・ド・ペアーージュ市および隣接するコミューン（フランスの基礎自治体）であるロマン・シュル・イゼール市にて開催され、当時フレアパリに派遣されていた本市職員が富岡製糸場の歴史について発表を行い、富岡製糸場の世界遺産としての価値を発信しました。

このように、世界遺産登録へ向けた学術研究を中心としてブル・ド・ペアーージュ市との交流を積み重ね、2014（平成26）年に「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録。その翌年に外務省在リヨン領事事務所主催の富岡製糸場世界遺産登録記念大型文化事業「絹が結ぶ縁」が開催されることになり、この事業に合わせて同市との友好都市協定を締結することができました。



△友好都市協定締結式の後に行われたポール・ブリユナ記念プレート除幕式  
写真右：ナタリー・ニエゾン市長

「ブル・ド・ペアーージュ展」の開催

友好都市協定締結を記念して、2016（平成28）年10月、富岡製糸場東置蔵所で「友好都市協定締結記念事業ブル・ド・ペアーージュ展」周辺地域の歴史的産業に光をあてて「」を開催しました。本展では、交流の原点であるポール・ブリユナの関連資料をはじめ、ブル・ド・ペアーージュ市の主要産業であったフェルト帽子にまつわる資料の展示を行いました。また、同市の周辺地域であるアン県に位置するセルドン銅工場や、ボネ絹工場からも展示資料を借用し、展示しました。

本企画展を通じて、富岡製糸場とフランスとの技術交流や国際交流の歴史



△オープニングセレモニー

を発信する好機になりました。また、ナタリー・ニエゾン市長のほか、ブル・ド・ペアーージュ市民が訪問するなど、友好都市であるブル・ド・ペアーージュ市との交流を深められたことが何よりの成果であると言えます。

日仏自治体交流会議への参加

日仏自治体交流会議は、2008（平成20）年10月に、日仏交流150周年を記念してフランスのナンシー市で、互いに姉妹都市関係にあるナンシー市と金沢市の両自治体の呼び掛けにより、初めて開催されました。

本会議は、姉妹都市など交流関係にある日仏両国の自治体が一同行き、両国の自治体抱える共通の課題について議論することを目的に開催されています。一対一という自治体間交流の枠組みを超え、多面的な自治体間交流のモデルを提議しています。

本市は、第2回会議（金沢市）から参加しています。第4回会議（高松市）では富岡市長が分科会座長を務め、第5回会議（トゥール市）では全体会にて基調講演を行うなど、重要な役割を担ってまいりました。



△基調講演を行う岩井市長（第5回日仏自治体交流会議）

明治大学 クリスチャン・ポラック コレクション展

—資料が語る富岡製糸場の日仏交流史—

日仏交流史研究家で、幕末・明治の日仏交流資料の収集家であるクリスチャン・ポラックさんが収集した富岡製糸場関連資料を、所蔵館である明治大学図書館および同学博物館の協力の下、富岡製糸場東置蔵所で展示しています。詳しくは、広報とみおか1月号または富岡製糸場ホームページをご覧ください。



高橋（ラベル）コレクション 大日本上野国富岡製糸所（発行年不明）

日時 2月12日(日)まで、午前9時～午後5時（最終受付：午後4時30分）  
会場 富岡製糸場東置蔵所  
問い合わせ 富岡製糸場戦略課（☎64-0005）